

適用病害及び使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
芝	コガネムシ類幼虫	2,500倍	0.5L/m ²	成虫産卵時期～ 幼虫発生初期	2回以内	散布	2回以内
		1,000倍	0.2L/m ²				
		500倍	0.1L/m ²				
	シバオサゾウムシ	2,500倍	0.5L/m ²	発生初期			
		1,000倍	0.2L/m ²				
		500倍	0.1L/m ²				
チガヤシロオカイガラムシ幼虫	2,500倍	0.5L/m ²	発生前～発生初期				
ケラ			発生初期				
つつじ類	ツツジグンバイ	5,000倍	1.0L/m ²	発生前	株元灌注	5回以内(株元灌注は2回以内、 土壌混和は2回以内)	
かえで	モミジニタイケアブラムシ					2回以内	

有効成分と性状

種類名	イミダクロプリド水和剤
商品名	タフバリアフロアブル
有効成分	イミダクロプリド(化管法1種)……20.0%
性状	白色水性和性粘稠懸濁液体
荷姿	400mL×10本

人畜・魚介類に対する安全性(製剤)

人畜毒性 (急性) 医薬用外劇物	経口	ラット(♂)	LD ₅₀ 3,200mg/kg
	経皮	ラット(♂♀)	LD ₅₀ >2,000mg/kg
	皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし
	眼刺激性	ウサギ	刺激性なし
	皮膚感作性	モルモット	皮膚感作性なし
水産動植物に 対する影響	コイ		LC ₅₀ 579mg/L96hr
	ミジンコ		EC ₅₀ 240mg/L(48hr)
	藻類		ErC ₅₀ 251mg/L0-72hr

⚠ 効果・薬害等の注意事項

- 使用前に容器をよく振ってください。
- 使用量、使用時期、使用方法を守ってください。
- 本剤を適用作物群に属する作物またはその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してください。(病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。)

⚠ 貯蔵上の注意事項

- 密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼・乾燥した場所に保管してください。保管は鍵をかけ、盗難・紛失の際は、警察に届け出てください。

魚毒性等…散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

- 使用量に合わせて薬液を調製し、使いきってください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄液はタンクに入れてください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載内容以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届くところには置かないでください。

⚠ 安全使用上の注意事項

- 室に対して長期間毒性があるので、絶対に桑葉にかからないようにしてください。
- ミツバチに対する注意
 - 巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
 - 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 散布時は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣等を着用してください。作業後は手足、顔等を石けんでよく洗い、うがいをしてください。



- 眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗してください。
- 医薬用外劇物。取り扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の処置を受けさせてください。
- 使用中に異常を感じた場合には、直ちに医師の処置を受けてください。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や使用に関係ない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- ◎火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努めてください。
- ◎漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収してください。
- ◎移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- ◎飲めません。
- ◎有効年月内に使用してください。
- ◎体調の悪い時、妊娠中、飲酒後は取扱いおよび作業をしないでください。



殺虫剤 芝用



コガネムシ、ケラ、チガヤシロオカイガラムシ
防除の決定版

医薬用外劇物

登録商標 第2515765号



早めの散布で長く効く

特長

● 高い殺虫効果

- 少ない有効成分でコガネムシ類の孵化直後から若齢幼虫まで高い殺虫効果を示します
接触毒と食毒効果がありますが、食毒効果のほうが高いと考えられています
- シバオサゾウムシ・チガヤシロオカイガラムシにも高い殺虫効果があります

● 優れた残効性(約3ヶ月)

残効期間が長く、散布回数の軽減が可能です。また、適度な土壌吸着があるので、下方への流亡が少ない薬剤です

● 作業の省力化が可能

散布水量を0.1L/㎡まで減らすことができます(コガネムシ類・シバオサゾウムシ・ケラ)

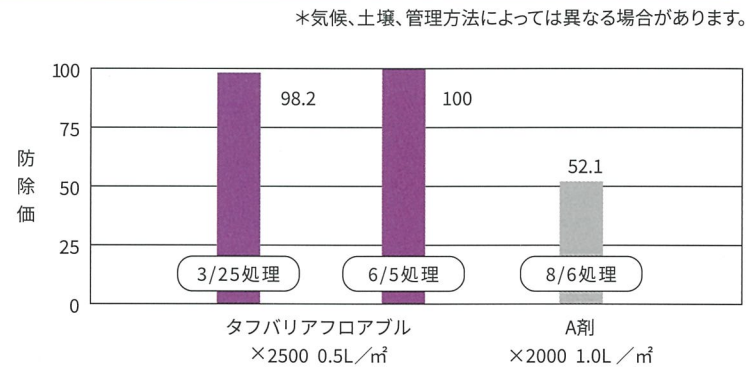
上手な使い方

春に処理して約3ヶ月の残効 活発な幼虫の摂食行動を抑制し、芝生を守ります

■ タフバリアフロアブルの散布適期

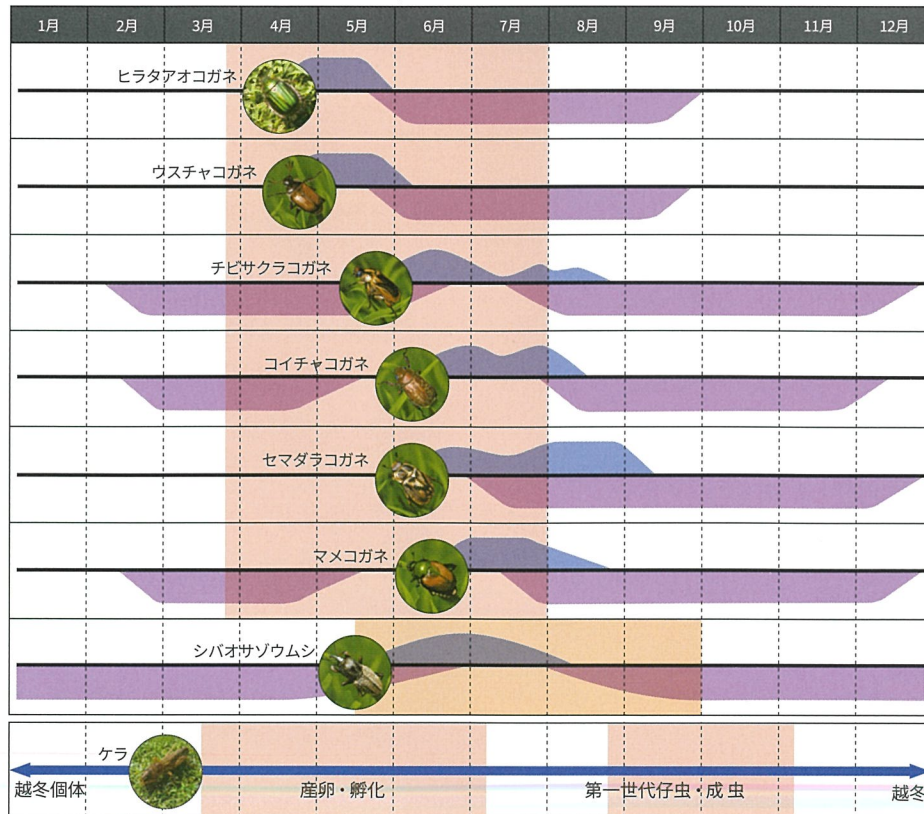
予防的に早めの散布をすることによって、優れた効果を発揮します。

試験場所：(株)理研グリーン研究所内コウライシバ圃場
調査日：2002年8月20日
対象害虫：オオサカスジコガネおよびチビサクラコガネ幼虫



■ 発生と防除時期

タフバリアの
散布適期

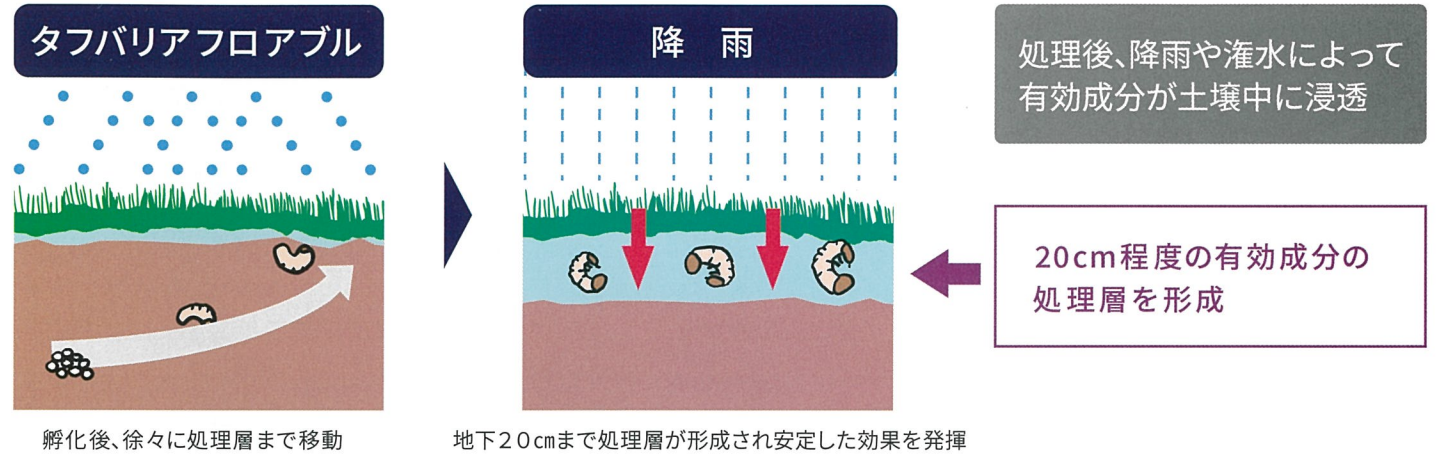


成虫 幼虫

※さまざまなコガネムシに使用できます
※この表は関東～東海地方の標準的な幼虫の発生消長を示したもので、地域、天候等により発生時期は前後します

コガネムシに対する効果

芝の根の周辺に有効成分の処理層が形成され、長く安定した効果が期待できます

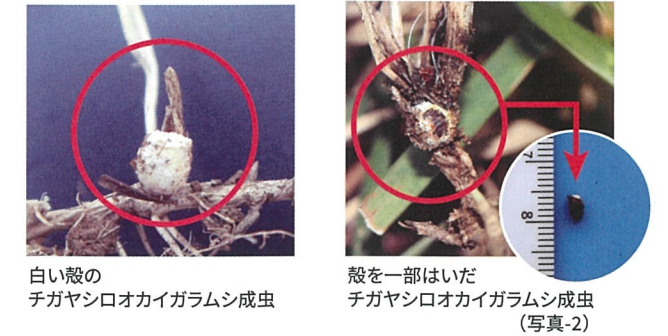


チガヤシロオカイガラムシに対する効果



春にコウライシバ・ノシバにしずみ症状が発生し、殺菌剤の効果が無い場合は、特にチガヤシロオカイガラムシの発生を疑う必要があります(写真-1)。ホールカップで掘り取って、茎の分岐点に黒ずんだ小さな菌状の(初期は全体が白いが、排泄物等で黒く汚れてくる)ものが見られたら、これがチガヤシロオカイガラムシの成虫(写真-2)です。

成虫はろう物質の殻に覆われていて薬剤効果が期待しにくいいため、防除は幼虫の発生初期に行います。



幼虫の発生は5月下旬～6月と8～9月頃の2回、この時期が散布適期です。



チガヤシロオカイガラムシ